令和７年度第１回栃木県総合教育会議

議事録

日　時　令和７年７月８日（火曜日）
　　午後３時から午後４時 15 分まで

会　場　公館大会議室

出席者	教 育 長	中　村　千　浩
	教育委員（教育長職務代行者）	鈴　木　純美子
	教育委員	永　島　朋　子
	教育委員	松　金　公　正
	教育委員	尾　﨑　宗　範
	教育委員	板　橋　信　行
	知　　事	福　田　富　一

１．開会

○司会　定刻となりましたので、これから令和７年度第１回栃木県総合教育会議を開会します。

当会議は、栃木県総合教育会議設置要綱第５条に基づき、公開で行うこととなっておりますので、御了承願います。

２．挨拶

○司会　はじめに、福田知事から御挨拶を申し上げます。

○福田知事　皆様、こんにちは。

お忙しいところ、またお暑い中、教育委員会の皆様方には、栃木県総合教育会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃から、本県の教育施策の推進に絶大なるお力添えをいただいておりますことに、改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、今年度は、次期栃木県教育大綱の策定年度となっております。本大綱は、平成 28 年度に策定し、令和３年度に現在のものに改訂したものであり、本県における教育や学術、文化の振興に関する総合的な施策を定めたものでございます。

一方、教育の振興に関する基本的な方針を定める栃木県教育振興基本計画につきましても、今年度が次期計画の策定年度となっております。この大綱と計画とは、基本的な方向性が同じでありますことから、次年度からは、これらを一体的なものとして策定し、教育分野と県政の様々な分野が、より密接に連携して施策に取り組むとともに、県民にとっても分かりやすい形を目指して参りたいと考えております。

現在の教育を取り巻く状況は、少子高齢化やグローバル化の進行に加え、いじめや不登校、特別な支援を必要とする児童生徒の増加といった、こどもたちが抱える課題が多様化、複雑化するなど、めまぐるしく変化してきております。

未来を担うこどもたちが、これからの時代に必要な力を身につけていけるよう、教育環境づくりは、喫緊の課題でございます。

そのような中、本日は、「次期栃木県教育振興基本計画の骨子」について、委員の皆様と率直な意見交換をして参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

２．議題

次期栃木県教育振興基本計画骨子について

○司会　それでは、これより議事に入ります。

ここからの進行は、本会議の招集者であります福田知事にお願いします。

○福田知事　はい、それでは、議題の次期栃木県教育振興基本計画骨子について議事を進めます。

事務局の説明を求めます。

○事務局　それでは説明を申し上げます。資料１「次期栃木県教育振興基本計画骨子について」をお開きください。

先程知事の挨拶にもございましたとおり、次期教育大綱ともなります次期教育振興基本計

画でございますが、これは地方公共団体が、国が定める教育振興基本計画を参酌し、地域の実情に応じて定める教育振興のための施策に関する基本的な計画でございまして、現在、有識者による懇談会を開催し、計画の策定を進めているところでございます。

この教育振興基本計画について、教育大綱と一体的に作っていくという方向でございまして、次期教育大綱ともなる内容でございます。

本日は、骨子について御説明いたします。

資料１の「１　現状・課題等」についてです。(1)、(2) は、国の第４期計画において整理された社会の状況や国全体の教育課題でございます。

(1) の「社会の状況」につきましては、現代社会は、ＶＵＣＡ（ブーカ）の時代と呼ばれるなど将来の予測困難な時代に対応していくことが求められています。

(2) 「国全体の教育課題」につきましては、こどもの置かれた状況の多様化、複雑化への対応も課題となっております。

(3) の第１回の教育振興基本計画懇談会での意見でございますが、今年２月に開催した時点では、有識者の方々から、「探究的な学びやキャリア教育、産官学が連携した取組の充実」や「多様なニーズへの対応の充実」などを重視する必要があるとの御意見をいただいたところです。

(4) のこどもの意見聴取につきましては、こども政策課のこどもモニター制度を活用し、約1,000 人の児童生徒、保護者を対象に「学校に対し求めていること」について調査したところ、「安全・安心して過ごせる学校づくり」が最も高く、半数近くでございました。この他、「わかりやすい授業」「体験活動」「温かい人間関係」なども高い結果となりました。

これらを踏まえまして、右側にございますとおり、今後の栃木県教育において求められることを、「誰もが安全・安心に学べる学校づくり」など、７つの項目に整理をいたしました。

次のページをお願いいたします。

３の計画期間は、令和８年度から令和 12 年度までの５年間です。

続いて、４の骨子の概要を御覧ください。

①の計画の位置付けについてです。これまでも、知事と教育委員会が同じ考え方のもと、密接に連携して教育施策を進めて参りました。知事が策定する教育大綱と、教育委員会が策定する教育振興基本計画についても、両者が同じ視点に立って計画づくりに当たって参りましたので、両計画がほぼ同内容となっております。次期計画及び次期大綱を策定するに当たりまして、県民にとってよりわかりやすいものとするため、両計画を一体化して策定する方向で進めていくことといたしました。また、国から新たに策定が求められました情報化推進計画についても、学校のＤＸ化を進める基本方針となるものですので、ここに一体的に策定することといたしました。

②の基本理念については、一人ひとりのこどもを主語にする教育の実現を目指して、教員に求められる役割をこどもたちの主体的な学びへの効果的な支援、伴走に転換していくことが重要であり、そして、こどもをとりまく状況が多様化、複雑化する中、誰もが幸せや生きがいを感じながら、自分の可能性を開花させ、未来を描けるようにしていくことが重要であること、そして、豊かな発想力や専門性を身に付け、他者と協働しながら社会の変化に積極果敢に挑戦し、未来を描けるようにしていくことが重要である、こういった認識のもと、「誰もが自分の可能性を開花させ　ともに未来を描く　とちぎの教育を実現します」といたしまして、その実

現を目指し、③にございます、５つの基本目標、10の基本施策を設定いたしました。

その際、那須雪崩事故の教訓を踏まえまして、「学校安全の徹底」を全ての教育活動の前提として引き続き「基本目標Ⅰ」に位置付けることといたしました。

次に、各目標について簡単に御説明いたします。

「Ⅰ　誰もが安全に安心して学べる学校づくり」につきましては、全ての教育活動の前提として位置付けまして、学びの場における安全確保や児童生徒指導の充実などにより、誰もが安全に安心して学べる学校づくりを推進して参ります。

「Ⅱ　ともに幸せや生きがいを感じる社会を創る力を育む」につきましては、誰一人取り残さず一人ひとりの可能性を最大限に伸ばせるよう、特別支援教育、不登校や外国人への支援など、多様なニーズに対応した教育の充実を図りますとともに、人権が尊重された社会の実現を目指した教育の充実を図ります。

「Ⅲ　新たな価値を創造する力を育む」につきましては、こどもたちが主体的に課題を発見し、協働しながら課題解決する機会を充実させることによりまして、持続可能な社会の担い手として、未来を切り拓く力を育む機会の充実を図るということです。

「Ⅳ　ふるさとの未来を担う力を育む」につきましては、学校・家庭・地域の連携・協働により、地域全体でこどもたちを育む学校づくりや地域づくり、部活動の地域展開、ふるさとへの愛着を深める機会の充実などによりまして、とちぎの発展に向けて、生涯学び続ける機会の充実を図って参るということです。

「Ⅴ　未来を見据えた質の高い教育環境づくり」につきましては、教育ＤＸの推進や特色ある学校づくり推進するとともに、研修の充実や学校の働き方改革の推進などにより、学校の指導・運営体制の充実を図ります。

このように、基本目標をⅠ～Ⅴの５つに設定したところでございます。

骨子についての説明は以上でございまして、資料２では、現在の教育大綱の施策と次期教育振興基本計画の施策の対応関係を整理しております。現大綱と比べまして、施策の順番が前後していたり、分割や統合がございますけれども、現在の教育大綱に掲げている各種施策は次期計画においても引き続き取り組んで行くという考え方で骨子を作っているところでございます。

説明は以上でございます。

○福田知事　ありがとうございます。ただ今事務局から、骨子について説明がありました。

ここで次期栃木県教育振興基本計画は、栃木県教育大綱と一体化して策定する方向で進めて参りますことから、次期大綱策定にあたって、私の考えを申し上げたいと思います。

まず、次期栃木県教育振興基本計画骨子の全体の構成については、現行の教育大綱に盛り込まれている内容も網羅されており、かつ、重点的に取り組む施策を選りすぐるなど、コンパクトで分かりやすい構成となっていると考えております。

また、骨子の策定に当たっては、栃木県こどもモニターの仕組みを活用し、集まったこどもたちの意見も参考にしているとの説明がありました。

そこでは、「学校が安全・安心な場所になってほしい」という意見が多くあったということで、今回の計画では、「学校安全の徹底」を全ての教育活動の前提としているところも、こどもたちの意見を反映したものであると言えると考えます。

また、変化の激しい時代の中で、教員には、こどもたちの主体的な学びを支援する役割が求められており、一方でこどもたちも、学びの中で豊かな発想力や専門性を身につけ、社会の変化に積極果敢に挑戦できるようになることが重要なのではないかと思います。

そのためには、こどもたちが、安全・安心な学習環境の中で、周囲と協働し、様々なことを学び、体験しながら、自分の可能性を開花させることができる教育を充実させていくことが必要ではないかと考えており、その理念は、教育大綱において目指す方向性とも一致していると思います。

以上のようなことから、大綱と一体的なものとして策定する計画の骨子としては、概ね問題ないものではないかと考えております。

○福田知事　それでは、まず、この骨子の基本目標Ⅰ～Ⅴのそれぞれについて、皆様の御意見を伺いたいと思います。

はじめに、基本目標Ⅰ「誰もが安全に安心して学べる学校づくり」についてです。

それでは、永島委員お願いします。

○永島委員　それでは発言させていただきます。

誰もが安全に安心して学べる学校づくりについて、私の思いを述べさせていただきたいと思います。

教育現場における安全安心とは、こどもたちが健やかに学び育つために、学校という環境が物理的にも心理的にも安全であり、安心して生活、学習できる状態と考えます。

広くは学習環境の整備、これは学ぶこと以前の問題かもしれませんが、エアコンの設備や県立高校における校舎の老朽化への対応、多目的トイレの普及はまだまだと感じています。予算と隣り合わせになる部分かもしれませんが、環境の充実を図っていければいいと思っています。

次に身体的な安全として、地震や自然災害、不審者などの危機管理体制の整備、通学路の安全確保、見守りや交通指導等、現在も地域の方にお力を借りていると思いますが、引き続き、こどもたちへの指導や防災への意識づけを行っていければと思っています。

教育現場において、リスクゼロは存在しないと思います。教育活動には、何らかのリスクが伴います。全ての危険を回避するとなると、こどもたちの学びや成長の機会も失われてしまいます。リスクを恐れてやらない教育ではなく、危機管理体制を整えた上で、こども自身が安全に行動する力を育み、危機回避のスキルや判断をするということを育てていけたらと思います。教員が安全を全て守るだけではなく、安全を共に考える教育ができたらと思います。

最後に、心理的な安全として、個々の違いの理解と配慮、自分の意見や気持ちを安心して発言できること、学習面や生活面で困っているこどもたちへの個別支援の充実ということを挙げさせていただきたいと思います。誰もが安心してと言葉で言うのは簡単ではありますが、安心して過ごせる学校ということを、今後の基本計画に基づいた施策の方向性を私も注視して行きたいと思っております。

以上です。

○福田知事　ありがとうございました。それでは、次に、基本目標Ⅱ「ともに幸せや生きがいを感じる社会を創る力を育む」についてです。

鈴木委員お願いします。

○鈴木委員　それでは、発言させていただきます。

まず、私が注目したのは、特別支援教育の充実についてになります。元保護者でもありますので、ここで申し上げたいことがあるのですが、私の息子は、約 20 年前に栃木特別支援学校の小学部に入学しました。当時、初めての授業参観の時に、他の学校でもあると思いますが、親子給食が予定されていたのですが、食堂の厨房施設のキャパシティオーバーということで、中止になるということを説明され、大変残念に思ったことを記憶しています。

それから、約 20 年の間、厨房施設で調理員の方々が、狭いながら、そしてやりくりしながら給食を調理していたのかと思うと、本当に頭が下がる思いです。

それが、ようやく新しく広い食堂の施設や厨房が出来上がるということで、本当に保護者として感謝しております。そこに至るまでは紆余曲折ありましたが、辛抱強く対応していただいた皆様に感謝申し上げます。様々な想いを乗せて、こどもたちの笑顔があふれる食堂施設が完成することを祈っております。その暁には、親子給食をぜひ再開していただきたいと思っております。

そして、要望ですが、コロナ禍や那須雪崩事故が発生した中で、安全を追求するあまり、体験の教育が年々大変減っている状態なのですが、できる限りこどもたちには様々な体験をさせてあげたいと考えておりますので、先生方の負担にならない程度に、できるだけ体験の場を増やしていただけたらと考えております。

また、人権尊重の精神を育む教育ですが、私が申し上げたいのは道徳の授業の充実についてです。とても素晴らしい教科書が用意されているので、それらを十分に活用することで、できる限りこどもたちの心を育む教育を推進していただけたらと考えております。

加えて、「とちぎ学びの夢学園」が、令和８年４月に開校する予定ですが、ここでは学び直しや外国人の方たちの学びの場となることが計画されていますが、この学校に対する可能性がとてもたくさんありまして、本当に盛り込みたいことはたくさんあるのですが、実際に開校してみないと分からないことが多すぎて、軌道に乗るまでは様々な方の努力が必要かと思うのですが、現状不登校の方が将来学びたいと思った時に、その学校があるということが大きな安心に繋がると思います。「とちぎ学びの夢学園」の成功を祈っております。

私からは以上です。

○福田知事　ぜひ応援してください。それでは、基本目標Ⅲ「新たな価値を創造する力を育む」についてです。

松金委員から御意見いただければと思います。

○松金委員　それでは、お話しさせていただきます。私自身は今大学で教員をしております関係で、大学教育の中では最近の中央教育審議会の方から「知の総和」という言葉が出ています。その『「知の総和」向上の未来像』というものは、日本が少子高齢化による人口が減少している中において、知の総和を高めていくということが、高等教育に与えられた使命であると言われて

いるものです。

そういう観点から考えますと、この「総和」というものは、基本的にＡとＢをただ合わせていくようなものではなくて、お互いがリンクし合い、融合して新しいものを作り出していくということを言っているものだと理解しています。

この基本目標Ⅲの「新たな価値を創造する力」の「新たな価値」というものも、これまであったものをただ合わせていくだけではなくて、作り出していく、あるいは融合させていくような、そしてお互いの持っているものを上手くシェアしながら使っていく力というものが、やはり重要になってくるのだろうと思っておりまして、目標として本当に良いものではないかなと思っております。

まず資質と能力ということに関しますと、もちろんこれまでどおり知識や技能というのは重要なものであろうと思います。ただ、この後、ＤＸの話もおそらく出てくると思いますが、色々と機械化され、ＡＩも使うなど、人間がやらなくてもできるような部分、もちろんそれを作り上げていくようなことも重要だと思いますけれども、それを基本的に選び取り、使いこなせるような能力、つまり知識をただ覚えているだけではなくて、うまく使っていく、それぞれの方の必要な知識とか議論によって違うと思いますので、中々そういったところを展開していかなければいけないと思います。そういう意味では、やはり教育としまして、学びに向かう力であるとか、今言ったような選択をしていくことができるような人間性というのが、知識や技能の元に育んでいくような力になっていくのだろうと思っております。

その上で、例えば、思考力や判断力、そして表現力、やはりいろいろな方と協働していくという意味では、ただ単に言葉ができるというこれもやはりＡＩが発達しますと、言語の翻訳といったものはできていくので、本当の意味でのコミュニケーション力というものや、多様な人たちがこれから活躍する社会になっていくと、それぞれの立場に立って、例えば傾聴力や自分の意見を色々な意味でこれ一つが正しいという形や観点でなく伝えていくことができる表現力が重要な部分になってくるのではないかと思っています。

ただ、これらをこどもの時から育てていくためには、実践的な場を設けていくことが必要です。これは地域が一緒になって作っていかないと中々厳しいでしょう。また、もう一つ、この新たな価値観創造において、重要なことではないかと私が思っているのは、失敗を恐れない、失敗を責めない、そもそもそれが失敗であるかどうかというのを教えていく側が、若しくは教員側が決めつけないという枠組みができていくといいのではないかと思います。それによって、失敗を恐れないチャレンジ精神というのが、言ってしまうと簡単なのですが、そういう失敗を恐れない自由な発想や多様な価値観を理解していくことができます。

ですから、やはりこの新たな価値観を創造するということ、そして「知の総和」というものを高めて多くの人と協働していくためには、その失敗を恐れないような形というのが重要になってくるのではないかなと思っています。

当然、海外や地球的な規模の課題に目を向けることは大事なのですが、多分これから先の時代、グローバルというのはただ外に目を向けるだけではなくて、まさにこの栃木の中にこそグローバルがあって、先ほどお話がありましたが、とちぎ学びの夢学園も含めて、栃木の中にあるグローバルを生かし、新しい栃木でなければ作れないような新しい価値観を作っていくというような観点が大事になってくるのではないかと思っているところです。

まとめますと、今話したような、失敗というものを決めつけたり恐れたりしないことで、こ

どもたちが社会的な課題を自分の問題だと捉えられます。そして捉えるからこそ解決に向けて思考をすることができ、そしておそらくもう一つ大事なポイントは、一度解決したら終わりではなく、自分が向き合った課題にもう一度向き合えるような、再度働きかけるような学習活動というのを作っていくことにより、いわゆる「持続可能」という言葉がここに入っていますけれども、再度働きかけていくことが必要です。１回終わっただけで解決してしまうと、再度働きかけませんし、この複雑な時代に、１回で解決するような問題はないわけですから、そこにもう１回チャレンジしていくことが、持続可能な社会の作り手として活動をしていくということなのではないかなと思っております。

最後に二つ程ありますが、教える側も学ぶ側も支える地域も幸せであるというのがポイントになるでしょう。幸せの中で生まれてこないと、ブレイクスルーというのは中々出てこないと思います。もう一つは、キーワードとして「しなやかさ」というものがあります。お話ししたように、必ず失敗はありますので、失敗にしなやかに対応していく個人、それから、しなやかに指導していく教育というものが、これから社会でも学校でも必要になってくるのではないかと思います。

以上になります。

○福田知事　ありがとうございます。次に、基本目標Ⅳ「ふるさとの未来を担う力を育む」についてです。

尾﨑委員から御意見をいただければと思います。

○尾﨑委員　お時間いただきまして、ありがとうございます。先程知事からもありましたが、少子高齢化の時代に、いかに地域において家庭・地域・学校が連携しているかという話でした。

例えば、今も既に行われておりますけれども、こどもたちが、地域の高齢者の方と、低学年から高学年それぞれの学年に応じて一緒に過ごす時間を持つことが必要かと考えます。例えば、低学年のこどもたちであるならば高齢者から知恵を学ぶものであったり、一緒に遊ぶことも必要かもしれませんし、中学年になってくれば、高齢者の専門的な知識や実際に生活してきた話を聞くこともあるかもしれません。そして、高学年になってくれば、高齢者の方の介護についても必要になってくるのかなと考えます。いま高齢者が増えてきた時代において、実際に私たちは介護というものに直接向き合わなければなりません。

同じように、育児に関しても学ぶ機会がありません。残念ながら、家庭の中において育児について大きな問題が出てきて、それが社会において、また学校において問題になってくる訳であって、そうすると育児とは何か、どのような育児が必要なのか、誰が何をできるのか、ということや、介護においても同じように、どういったことができるのかといった、今まででしたら自然と家庭の中で学べたことが学べなくなってきていますので、そういった関わり方を作っていくことにより、地域と高齢者と学校と家庭が結びついて、社会を作れるのではないかと考えます。

私は産業人として、仕事をしている中において思うのですが、やはり地域との絡みを作っていくという部分において、地域に誇りを持っていただく、地域のことを知っていただくという点で、例えば学校給食は一番大きな接点になり得るのではと思います。

地産地消の食材を使った給食を作り、実際に食材を作ってくださった農家の方などが学校

に来て話をしてくれ、それを聞くことによって、どのような人たちがどんなことをすることで給食が作られているのか、もしくは地産されているのかを知ることにより、食に対しての興味を持つでしょうし、食育にも結びつくでしょう。そして、食育から家庭ということに結びついていくものかなと考えます。

例えば、今私どもはオーガニックということをやっているのですが、オーガニックの食材が地域で作られ、それが学校給食に取り入れられることで美味しさや良さが家庭に伝わり、家庭でもそれを選ぶ。そうすることによって、地域の産業が発展するという繋がりが出てくるのではないかと思っております。地産地消や産業の現場との接点というものを大きく作っていくことが地域を担う力にもなるでしょうし、また地域を知る機会にもなるのではないかと思います。

同じように、地域というものを知る機会という部分については、今、国政選挙が行われておりますけれども、地方選挙の主権者教育、これがやはり地域を考えるきっかけだと思います。

そういった主権者教育であったり、地域の身近な問題や課題若しくは自分たちの学校における課題を考えるＳＴＥＡＭ教育というものがこれから増えてくるかと思いますが、そのＳＴＥＡＭ教育のテーマとして、そういったものを取り上げることによって自分たちで自分たちの問題を考え、地域を考え、そしてそれを学んでいくということができるのではないかと思います。

知事がおっしゃられたように、世の中が激変しています。その中において、それを生き抜いていく力を作るということは、自分たちで考えて決めていくことです。それは、様々な情報が溢れている中で、ＤＸやＩＴ化が進むという中において、洪水のように来る様々な情報を取捨選択する力と読み取る力を育てる必要があります。

地域社会で生きる人材をつくるという点において、今まで私たち大人がある意味で避けてきたテーマ、例えば政治やお金、いじめのこと、性の問題、戦争の問題、薬物問題といったことも含めて、学年に応じて考えるということ、自分たちの問題と捉えていくということが生き抜く力を育むことになるのではないかと思います。

先ほどお話もありましたが、遠ざけるのではなく、そのものを取り込み、実際にそれをテーマとして考えさせることが、将来社会に出た時に役に立つ力になるのではないかなと思いますし、地域を知ることや愛することに繋がっていくのではないかと考えております。

以上でございます。

○福田知事　ありがとうございます。それでは、基本目標Ｖ「未来を見据えた質の高い教育環境づくり」についてです。

板橋委員の御意見をいただければと思います。

○板橋委員　はい、未来を見据えた質の高い教育環境づくりについて、意見を述べさせていただきたいと思います。

次年度、高校授業料の無償化と私立への拡大を踏まえて、教育に向けての施策が国から発表されております。先日、私学関係の方と話をしていた時に、例えば今私立の高校ですと、特待生に対しましては授業料免除の措置が行われておりますが、今後、授業料が無償化されるに当たって、制度的にできるのかどうかはわかりませんが、逆にその免除分を生徒への支給に充て

るという形で、生徒の確保を考えているような話も出ているというお話もお聞きしました。そういったことを考えた場合に、今度は公立高校が、本当にその良さですとか特徴をしっかりと考えていくということをしないと、中々バランスのとれた教育体系というのができないのではないかと、少し不安に思った次第でございます。

折しも今、少子高齢化が進行する中で、高校のみならず小・中学校の統廃合ということが考えられておりますが、逆にこれをチャンスと捉え、新しい形の魅力ある学校を創造していくということにおいては、大いに活かしていけるものではないかと思う次第です。

例えば、公立高校であれば専門高校をより充実させていくことに加えて、先程のとちぎ学びの夢学園のような夜間中学やフレキシブルな定時制など、様々な学校を用意していくといったことも、一つの特徴づくりになろうかと思います。

加えて、教育の目標に掲げられているような、自立して主体性があり、そして当事者意識を持っている生徒を育てていくということにおいては、ＳＴＥＡＭ教育のような探究的な学習、もしくは協働・対話を中心としたような、まさにこれは集合教育の醍醐味ではないかと思うのですが、ＩＣＴとはまた別の観点で、一緒に何かを研究していくという場を設けるということをより充実させていかなければならないのではないかと思います。

ある企業の方が、グループでの色々な討議は効果があるかという事例としてお話されていたことなのですが、ある問題に対して、まず一人で考えた場合、そして何人かの知っている人が集まったグループで考えた場合、そして全く知らない人が集まったグループで考えた場合のそれぞれの正答率を調査したらしいのです。やはり、一人で考えただけですと正答率が低く、よく知ったメンバーで考えたものですとその次に正答率が高く、一番正答率が高いのは知らない人と一緒に話し合った結果が高いという事例があるようでございます。そういった意味では、この協働・対話を中心としたような授業をより深めていくということも、特徴づくりに繋がるのではないかと思います。

最終的には、今中々他人の理解が進まずに、世界中で紛争がなくならないということが続いておりますけれども、こういったグループの討議の中で相手をいかに理解するかということを学ぶということもあろうかと思います。そして、今言ったような教育は、やはり新しいスタイルでございますので、先生方がそういった手法を学ぶような機会も、より充実していただくということは必要かと思います。

昨今、先生方の企業へのインターンシップなどもだいぶ実施していただいておりますけれども、企業側にも働きかけていただき、ぜひ先生方に各企業や団体で経験を積んでいただくことによって、現場を知っていただくこともぜひ推進したいと思います。

先程から地場との関連ということを申し上げますと、例えば我々の地元の足利高校などは新しく開校いたしましたが、体育館などは非常に大きなスペースがありますので、高校でオープンスクールができるのかは分かりませんが、先程お話もありましたが地場の人たちと一緒に学ぶ機会、コースやクラスを作っていただくとか、そういった工夫もしていただけるとありがたいなと思うところでございます。

いずれにしましても、環境的には厳しい時代に入ってまいりますが、質の高い環境というのは色々な工夫によって実現できるのではないかと思っておりますので、よろしくお願いします。以上です。

○福田知事　お話のあった、先生のインターンシップというのは、県全体でどの程度行われているのでしょうか。それは誰が決めるのでしょうか。各市町の教育委員会で決めるのでしょうか。何か県の方から、先生の人数の比率に応じて実施を依頼するなどしているのでしょうか。

○中村教育長　教員が企業等に出かけてというものについては、それぞれの学校で実施していまして、県全体として事業化をしているものではありません。

○板橋委員　例えば経済同友会にも一年間派遣をしていただいていますが、県の事業として行っていただいているのでしょうか。

○中村教育長　はい、毎年、義務教育や高校の教員が、一年間の研修を行わせていただいております。

○板橋委員　我々としては、先生とお話させていただけるという面では、本当に貴重な機会と思っております。

○福田知事　参加は限られた人数ということでしょうか。

○中村教育長　はい、経済同友会における研修への参加人数は毎年一人ということです。長年継続して受け入れてくださっていますので、研修を経験した教員は増えていると思います。

○福田知事　高校の先生を板橋委員の会社において受け入れるということも可能なのでしょうか。

○板橋委員　結果的には私の会社では受け入れられなかったのですが、数ヶ月間の実施についてお話をいただいたことはありました。

○中村教育長　以前、民間企業への派遣ということを県の取組として実施していました。受け入れていただける会社に教員が３か月や半年間出向するという事業でした。

○板橋委員　またそういった事業が考えられるようでしたらお願いしたいと思います。以上です。

○福田知事　これからの教育というのは不確実性の時代の中ですので、色々なものを組み合わせて、自分たちの周りのものを全部活用しこどもたちに教えていくということができれば、一番良いと思います。

例えば、尾﨑委員の酒蔵に行き勉強することで、これまで学校で学んだこととは全く違うものが学べるかもしれませんし、学校現場でこどもたちに教える際も、一味違う教育に繋がる可能性もあるのではないかと思います。

学力や人間力がより高い人材を、世の中に送り出していくためには、小・中・高等学校の教育は非常に重要です。一人ひとりが 12 年間で身に付けられるものは最大限に身に付けていただき、その後大学に進学するか社会人になるかは自分で決めることですが、それまでに教えてもらうことの数が多ければ多い程、いい人材に育っていくのではないかと思います。環境の中で使えるものは何でも使っていくという姿勢は、教育委員会としても、教師としても必要だと

思いました。

今いただいたインターンシップというお話ですが、昔は内地留学として大学に行き勉強するということがありましたが、今でも内地留学という制度はありますか。

○中村教育長　今も制度はあり、大学でお世話になっております。一年あるいは半年ということで、人権教育や教科教育など様々な分野でお世話になっておりますし、特別支援学校では、生徒の進路先に関連する企業等でお世話になっております。

ですので、それが教員のインターンシップに近いといえば近いかもしれません。

○福田知事　障害児者の受け入れ企業というのは県内にもたくさんありますので、そういうところに先生が行って、送り出す側としてだけではなく、受け入れる側としても学ぶというのは、現在も行っていると思いますが、積極的に取り組む価値があると思います。

現場の先生は忙しいため、時間が取れないのかもしれませんが、今後の５か年の計画には、そのような視点も加味することが必要かと思いました。

ただいま、基本目標についての意見をいただきました。

次に、骨子全体に対する意見や、今後どのような取組に特に力を入れるべきかについて御意見を伺えればと思います。

松金委員お願いします。

○松金委員　全体を通じて栃木県のこれまでの施策というのは、複雑な現代社会に対応できる人材を育成するという意味で、しっかりしたものが作られてきているという理解に立っております。これまでやってきた中で、着実に進行しているものをしっかり取り組んでいくという視点に加え、新しい部分をどう考えていくかということになろうかと思います。

例えば、その多様なニーズへの対応や、特に児童生徒の安全というのは、これまでの５年間で充分取り組んできたところかと思いますので、そこも確実に進化させていくということだと思います。

新しい部分としましては、先程お話もありましたＤＸのところかと思います。ＤＸはあくまでも次の教育のために行うものであって、時間の融通がきき、身軽になるというだけのものではないと思います。例えば、時間が生み出されたことで、教員ができていなかったこと、例えばインターンシップや、私の大学などへも内地留学がたくさん来ていただいていますが、その方が大学で勉強し、教育現場に戻って、更に専門化していくことに興味を持たれている優秀な先生方がいらっしゃいます。ですが、いま大学では新しくデータサイエンスなどが学べるようになっていますが、そこにはあまり関わられていません。データサイエンスや統計的なことが、かつての大学ではあまり勉強できなかったのですが、やっとできるようになってきていて、高校生が大学に入る際にはかなり人気があるのですが、先生方はそういったところには来ていただけないというところはどうしたらいいだろうということが、大学などでは考えているところです。

ですので、ＤＸを進めることによって、できた時間をどのように使っていくことが一番良いのかというのが、この数年間でしっかり明確化されていかなくてはいけないところかと思います。生み出された時間をどこに投入していくかとなると、生徒に実践活動を行わせることも

あるでしょうし、自らがその指導ができるようなコミュニケーション能力の向上や実践的なインターンシップなどに時間をかけていければいいのではないかと思ったところです。

○福田知事　ありがとうございます。それでは他の委員の皆さんお願いします。
　板橋委員お願いいたします。

○板橋委員　今のお話を聞いていて改めて思ったのですが、教育の中で、しっかり守るべきところと、挑戦をするところが、不易と流行ではございませんが、肝要なのかなと思う一方で、色々な話題が出てきていて、時代が変化する中で、先程言いましたとおり、特徴をしっかり出していかないと中々学校も生き残っていけないと考えます。どれだけ今までやらなかった新しいことに挑戦できるかということも骨子の具体的な指標として持っていただいてもいいのではないかと思った次第です。
　時間がないということや、万が一教育で失敗したらどうするのかということも勿論ある中ですが、やはり一歩踏み出すこと、今回の夜間中学なども一歩踏み出していただいた訳ですが、そういった新しい試みをこの５年間の中にいくつできるかということを、一つの指標にしていただいても良いのではないかと思います。
　今、社内で新しい事業をやろうというプロジェクトに取り組んでおりまして、そうすると社員からも盛んに意見が出てきそうでいて、実際にやろうという人が中々出てこないという状況があって、冗談半分に、とにかく今期は成功しなくていいから、いくつ失敗事例ができるかというつもりでやりたいという話をしましたら、２，３人やってみますという方が出てきました。教育はそのように簡単にはいかないと思いますが、そのぐらいのつもりでこの骨子を実行していただければと思います。以上です。

○福田知事　ありがとうございます。尾﨑委員お願いいたします。

○尾﨑委員　先程から話が出ておりますが、視点を変えることや、新しい視点と接することというのは、とても重要なことではないかなと思います。例えば、先生方にとっては教育現場において専門性を高められるということは確かに大切ですが、その一方で、実社会の中に身を置いていただき、別の視点から感じたことを持ち帰っていただくことで、どんなこどもたちを教育していくか、どういったこどもたちが求められているのかということを体験する時間を定期的に作っていただく仕組みがあってもいいのではないかと思います。こどもたちの留学ということからも言えることですが、外側から地域というものを見直すことができるという点については、先程、地域がグローバル化していくという話がありましたが、外からはグローバル化していると感じられたとしても、地域の中にいるだけですと中々感じづらい部分があります。同じように、先生方も学校の中だけにいると感じづらい部分がありますけれども、一旦学校から離れて外から学校を見ていただくことによって、感じる部分があるのではないかと思います。そのような時間を、定期的に作れるような仕組みができると、より現実的で高いレベルの教育に繋がるのではないかと感じました。

○福田知事　ありがとうございます。それでは、永島委員お願いします。

○永島委員　今までの話と少し視点が異なるかもしれませんが、やはり人が人を育むということが教育なのではないかと思います。昭和も令和も、それは変わらず同じことだと考えます。

教育現場の先生方の働き方改革は、私が教育委員となった３年前から進んでいるように感じることができないので、こどもたちと共に学び、支え合ってくださる先生方の職場環境の改善は急務ではないかと思っております。その中で、御自身の成長を実感しながら、こどもたちに本物の学びを届けていただける先生方の資質向上を、充実した職場から届けていただけたらなと思っています。時代が変わっても、ＡＩが登場しても、社会がどれだけ進化しても、やはり教育の基本は人であると思います。その中でも、ＩＣＴを活用した業務効率化を積極的に取り入れながら、業務の負担軽減を図っていただけたらと思っております。そこで生み出された時間を、自身のアップデートの機会に活用していただけたらと思っております。

余談ですが、私の息子は高校３年生ですが、今日は総合教育会議があるけれど、栃木の教育についてどう思うかという話をしたところ、自分の夢を語った時に、先生も周りの友達も地域の人も、それいいね、実現するといいね、と応援できるような雰囲気になれるということ、誰もが個人を理解して発言できるような学校になるといいと言っていました。

以上です。

○福田知事　ありがとうございます。鈴木委員、お願いいたします。

○鈴木委員　私自身は東京出身で、結婚して栃木県に住むことになりました。もう何十年も経つので、東京の環境は私が知っている頃とは異なっているとは思いますが、こどもたちの繋がりが、栃木県はとても強いと感じています。大人になっても繋がりが続くことは、東京ではあまりないことです。栃木県のこどもたちが大人となっても、社会人としてお互いを励まし合ったりしている話などをうかがって、栃木県で社会人として成功して行くためにできることがたくさんあると思っています。それには、身近な栃木県の大人たちが輝いていることが、こどもたちの目標になると思います。それは親であったり、先生であったりだと思いますので、目標となれるような大人でありたいと感じています。教育の基本は良い大人であると感じます。以上です。

○福田知事　ありがとうございます。それでは、教育長いかがでしょうか。

○中村教育長　皆さんのお話をうかがい、今までやらなかったことにいかに挑戦できるかということを考えますと、新しいことに挑戦できる余力を生み出す必要性を非常に感じました。教員自身のリスキリングといった観点を、ぜひ大切にしたいと思ったところです。

また、ＤＸを推進することや、ＩＣＴをどんどん取り入れるといったことの裏側には、根本的な全人教育、人格の形成に向けた日本の教育の良さを守りつつ、多様な価値観を持った人々と接する機会を増やしていきたいということがあります。

教員の働きがいといったところでは、働きがいを持ってこどもたちと接することができる環境づくりが必要なのではないかと考えるところです。また、新たな価値を生み出す、創造する力を育むということにつきましても、留学の機会をコロナ禍より前の頻度に戻し、今後はそれを上回るようにということを、国も目標として掲げていますので、留学の裾野の拡大に取り組むことも必要と思います。社会や地域にイノベーションを起こすグローバル人材の育成の

観点を栃木県の教育にも取り入れると考えた時には、海外に行くということだけではなく、栃木県にいながら国際的な視野を養えるような環境づくりも必要と感じました。

学校安全については、８年前の那須雪崩事故や 14 年前の東日本大震災の経験を踏まえ、危機管理マニュアルや計画の見直しも随時必要です。また、こどもたちに危機回避能力を育成するという観点からも、教員が常時、危機に対して非常に敏感であるということや、大規模災害等に備えるという意味でも、これらの事故等を風化させてはならないと思います。以上です。

○福田知事　委員の皆様方には様々なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

宇都宮市内のタクシー会社にも東京で運転手を経験されていた方が多くいらっしゃいますが、こどもたちが通学時やすれ違った時に元気に挨拶をしてくれて、栃木はいいところですねという話をうかがったことがあります。東京はそういったことがあまりなかったらしく、栃木はすごいというお褒めの言葉をいただきました。

一方で、高校や大学を卒業して社会人となった時に、これから作業現場などで仕事をして先輩方と関わるときに、挨拶や礼儀作法が身についていないというお声もいただきます。建設作業の技術を学ぶためインフラトレーニングセンターというのを考えているのですが、業界からは礼儀作法から教えてくださいと言われていると聞いていますが、私は、それは県庁の仕事ではないのではないかと言っています。小学生は挨拶ができて非常に素晴らしいのに、高校や大学を卒業してから挨拶ができなくなってしまうというギャップが生まれるのは何故なのだろうという思いがあります。

委員の方から、ＤＸによって生み出された時間を、先生も児童生徒も実践活動に活用し、挑戦し、視点を変えていくことが必要であることや、先生は資質向上に努め、周囲の身近な大人も良い大人となることでこどもたちが輝くといったご意見をいただきました。

先生にとっても、児童生徒にとっても、12 年間の中でたくさんの気づきがあって、それをお互いに活かし合うという学びの環境ができれば、こどもたちが輝き、素晴らしい人材が育つ学校現場に繋がると思います。勉強の仕方や他者への思いやりなどで、様々な気づきがあるということもあるかもしれません。教師もこどもたちも、それらにどれだけ多く出会えるかということを、委員の皆様の意見も踏まえ、これから５年間の取り組みによって、学校現場でそれらが花開き、実を結ぶことができる環境を作っていくことが大切と思います。

ついては、この骨子の中身を具体化し、濃いものにするためにはどうしたらよいかということが一番重要と考えます。

この後、素案をお示しするという段階に入っていきますが、その議論は 10 月頃を予定しております。今日のやり取りを踏まえ、改めて意見交換をさせてもらいたいと思います。具体的な日程につきましては、事務局から改めて御連絡いたします。

先生たちにとっても働きがい、やりがいのある職業であり現場であること、そしてこどもたちにとっても将来大人になって世の中に役立っていくため、学校に行くのが楽しくなり、自分の中に気づきがあることを期待できるようになったら素晴らしいと感じます。それらを提供する役割を私たちは担っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

４．閉会

○司会　以上をもちまして、令和７年度第１回栃木県総合教育会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。